

令和6年度学校評価書

玉野市立荘内中学校

校長 住田 義 広

1 自己評価について

(1) 自己評価方法

- ①学校評価アンケート(教職員:12月)実施
- ②学校評価アンケート(全校生徒:12月・全保護者:12月)実施
- ③学校評価集計結果への意見聴取(学校運営協議会委員2月)

(2) 自己評価の項目

- ①確かな学力について(7項目)
- ②豊かな心について(6項目)
- ③基本的な生活習慣について(16項目:うち4項目は教員のみ)
- ④信頼される学校づくりについて(5項目:うち1項目は保護者・教職員のみ)
- ⑤その他(4項目:教員のみ)

(3) 自己評価結果(A, B, Cの3段階評価)

- ◆生徒・教員の評価は良好、保護者の評価も少しずつ良好になっている。
- ① 確かな学力について(自己評価:B)
 - 授業改善について、全教員の授業改革への意識は高まっていた。今後、授業の質の向上を図っていく必要がある。
 - 生徒の自主的な学力向上プロジェクトチームを立ち上げ、自主学習ノートの充実や家庭学習時間の確保について取組を行うことができた。
 - 生徒は、生徒主体の授業を実施していると感じている。
 - クロームブックの活用や先行学習を基盤とした協働的な学びのスタイルは定着しているが、先行学習課題の取組には課題がある。
 - 家庭学習の定着については大きな課題であり、自主学習ノートや学プロの充実と併せて、個別最適化課題、予習的課題・授業・復習課題の連携をテーマに研究する必要がある。
 - 保護者は、まだICTを活用した学習活動をイメージできていない割合が高い。
- ② 豊かな心について(自己評価:A)
 - 自走していく生徒として確実な成長は見えている。
 - 生徒は、探究活動を推進して、未来を生きるための力を身につけようとしている。
 - 生徒が主体的にアイデアを提案し、実行する主体的活動が進んでいる。
 - TPOをわきまえた行動についての指導が今一步である。
- ③ 基本的な生活習慣について(自己評価:A)
 - 全体的に生徒の規範意識は高く、前向きに生活しているが、もっと高みを目指せると思われる。
 - 生徒は、楽しく充実した学校生活を送っている。
 - 生徒は、学校づくりを自分事として捉え、積極的に参画している。
 - 望ましい基本的な生活習慣の定着についての指導を充実させる必要がある。
 - 家庭でのメディアコントロールの啓発が一層必要である。
- ④ 信頼される学校づくりについて(自己評価:A)
 - 新聞掲載やHP、通信、SNS、メール等で広報を徹底し、高い評価をいただいている。
 - 保護者の教員による生徒の心に寄り添った、ほめて育てる本校の生徒指導方針は高評価である。

2 学校関係者評価について

(1) 学校関係者評価者名

- | | |
|-------|----------------|
| 西宇可奈子 | 荘内地区主任児童委員 |
| 相賀 一夫 | 玉野警察署管内少年警察協助手 |
| 片山 典子 | 片山産婦人科医師 |
| 古市智恵美 | 荘内サッカー少年団コーチ |

村上 浩司	一般社団法人
栗原 明美	槌ヶ原ちどり保育園園長
藤本 実穂	荘内南幼稚園園長
山本 佳生	荘内小学校校長
住田 義広	荘内中学校校長
板崎 彰	学識経験者：元中学校長
西城 睦美	荘内小 P T A 保護者代表
小野 寛子	荘内中 P T A 保護者代表
大賀 易	荘内公民館館長
入口 大志	玉野市教育委員会学校教育課

(2) 学校関係者評価方法

・学校運営協議会で学校評価アンケート結果を説明。評価・意見を回答していただいた。

(3) 学校関係者評価結果 (A, B, C の3段階評価)

① 確かな学力 (総合評価 A)

- ・家庭学習の定着に課題があると感じている保護者が多い。
- ・新しい学びにチャレンジしているので、生徒もいろいろな学習方法にチャレンジできているのではないかな。
- ・得点力の向上に期待したい。
- ・生徒の評価は高い。自分自身ができているとまず感じる事が大切なので、よいのではないかとと思われる。
- ・入試結果がある程度目安になるのではないかな。
- ・Chromebook が様々な場面に応じて的確に使われている。これからの時代に適用する生徒の育成に力を注いでいることが感じられる。
- ・知の部分をもっと前面に掲げる必要がある。

生徒と教職員の評価が高く、保護者の評価が相対的に低い。保護者にもっと伝わるとよい。

② 豊かな心 (総合評価 A)

- ・全体的に生徒の評価が高いのが良いと思う。
- ・生徒が主体的に取り組んでいける仕組みが学校全体であるので、生徒がとても前向きだと思う。失敗することがあってもたくましく育ってほしい。
- ・10代半ばの生徒達には何よりも心と生活習慣を大切にしてほしいと思う。
- ・校内ではよく挨拶ができています。
- ・生徒会が中心となった行事の実施や体験活動が充実しており、生徒が力をつけていると感じる。

③ 基本的な生活習慣 (生活全般) (総合評価 A)

- ・メディアコントロール等については、園でも課題である。ネット、ゲーム等との付き合い方をもっと指導していただきたい。
- ・教職員が学校運営を自分事として捉えていることが素晴らしいと感じた。
- ・生活リズムを整えることの大切さを保護者にも啓発していただきたい。
- ・楽しく充実した学校生活という一番基本となる軸の評価が3者とも高いことが素晴らしいと思う。

④ 信頼される学校づくり

- ・三者とも評価が高い。
- ・ひょっとしたら生徒は学校生活でのネガティブな部分を家庭で漏らしており、保護者は厳しくとらえているのかなと考えました。その一方で生徒の評価はそれほど低くないので興味深いです。
- ・先生方に通学の状況を見ていただきたいという声を聞いた。
- ・そのアンケート結果も高い評価であり、先生方の努力が見える。

⑤ その他

- ・中学生との交流の場をもっと設けていきたい。
- ・教育は多岐にわたる取り組みであるが、アンケート項目のほとんどが家庭教育がベースとなっているもの。連携が必要であるが、学校と保護者は求めるものが異なるため、すり合わせていくことは難しいと思

う。時代が変化していく中で、求められるものも大きく変わっていく。その中で生徒たちには心身ともに健やかで豊かに育ってほしい。何が必要か、大人たち全員で考えていきたい。

3 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

◆全教育課程を通じて、自走する学習者、自走する教育活動を目指していく。

◆全教職員で「未来の学校づくり」に取り組み、「令和の日本型教育」の実現を目指す。

1 「荘内中版：学びスタイル」(先行学習を基盤とした協働的な学び)による確かな学力の育成

(1)教育DXを推進し、これからの学びスタイルを実現

(2)2ヵ月サイクル学習や週課題等を徹底し、家庭学習の定着と得点力も引き上げていく。

2 生徒主体の学校づくり

(1)開発的な生徒指導の推進(PBIS:ポジティブな行動的介入と支援)

(2)生徒が主体的に企画運営する活動を充実

(3)地域とともにある学校づくりを推進

地域にうって出る取り組みを一層考えていきたい。地域共育目標「周囲に愛されながらチャレンジし続ける子どもの育成」を目指す具体的な地域との連携を考えていきたい。

3 生徒指導支援体制の充実

(1)基本的な生活習慣遅着に向けた取組の充実

(2)「みんなの学校」を推進(思いやりの心を育み共生社会の実現を目指す人間の育成)

4 教職員の資質能力の向上・働き方改革の推進

教育DXを推進し、これからの働き方スタイルを実現